

# 咲かそういのち



日蓮大聖人の教えを正しく伝える法華宗





ある冬の朝、真っ白な雪の上を歩くとその後には足跡が付きまします。深い雪は足を取られてとても歩きにくく、短い距離を進むだけでも疲れてしまいます。しかし、何度も何度も同じ所を歩いていると、その部分の雪が踏み固められて歩きやすくなり、真っ新な所に自分の足跡で作った道ができるのです。細い道、長い道、曲がりくねった道、まっすぐな道・・・まさに人生そのものを表しているかのようにも見えます。

道という言葉は、単に人や車が通る道だけでなく、人生やある目的に向かうまでの道のりを表す意味を持っています。何事も初めてその道を歩み始める際には様々な困難や苦難が立ちほだかっているでしょう。また、新たなことに挑戦する人も、必ずしもまっすぐな道とはいかないかもしれせん。しかし、どんなに険しい道でも自分の足で一歩一歩踏みしめて、様々な難を乗り越えて、また失敗して転んでも、めげずに立ち上がり歩んでいくことによって、自分自身の道を踏み固めて作り上げていくことができます。

私達の歩む信心の生活もまた、「仏道修行」という言葉のように、仏の道という言葉で表されます。仏道とは、仏の説き示した教え、菩提またはそれに至る道を示し、時にそれを達成するための修行をさすこともあります。お釈迦様は、人間としての正しい行い、また仏となるための正しい道を説き表されました。そして、お釈迦様の言葉を末法に生きる私たちにわかりやすく伝え、正しい修行を体現されたのが日蓮大聖人です。仏の道、仏様の教えは生きとし生けるもの全てが仏となるだけではなく、何かに思い悩み苦しんでいる人を救い、その人の道を開かせてくれるのです。私たちは、お釈迦様から日蓮大聖人、先師上人が築き上げてくれたまっすぐな輝かしい道に救われ、またその道を修行しながら歩んでいるのです。

春になり雪が解け、土の中からは植物が芽を出し、新しい道に向かって歩み始める方もいるでしょう。信心の道をしっかりと踏み固め、そして自分の信じたい道を堂々と進んでまいりましょう。

